

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 測度論的な概念を用いた形式言語理論への新たなアプローチ

2. 個人研究者名

新屋 良磨（秋田大学大学院理工学研究科 助教）

3. 事後評価結果

本研究では、研究者本人が導入したC可測性の概念をもとに、形式言語理論における「近似理論」の樹立を目指した。ACT-X 研究を通じて、C可測性の例およびそれらの間の関係を探索するという当初計画の方向で着実な成果が得られた。また、新たな方向性としてのC可測性の決定可能性および計算量の研究において、研究成果及び協働の輪の広がりが得られたことは高く評価できる。これらの成果は形式言語コミュニティの国際会議等で発表されており、着実な出版業績であると言える。今後実践的アルゴリズムへの理論的知見の応用を行う計画であり、実課題に根ざしたさらなる理論研究の飛躍が期待される。